

## 那珂市議会産業建設常任委員会記録

開催日時 平成30年2月6日（火）午前10時

開催場所 那珂市議会全員協議会室

出席委員 委員長 寺門 厚 副委員長 木野 広宣

委員 花島 進 委員 遠藤 実

委員 福田耕四郎

欠席委員 な し

職務のため出席した者の職氏名

事務局長 寺山 修一 次長 清水 貴

書記 萩谷 将司

会議に付した事件

(1) 産業建設常任委員会調査事項「下水道整備について」

…調査完了すべきもの。（後日執行部に要望書を提出）

議事の経過（出席者の発言内容は以下のとおり）

開会（午前10時00分）

委員長 おはようございます。

閉会中お忙しい中、ご参集いただきありがとうございます。

なお、今インフルエンザがはやっておりますので、体調管理には十分ご注意いただきたいと思えます。

開会前にご連絡をいたします。

会議は公開しており、傍聴可能とします。

また、会議の映像を庁舎内のテレビに放送します。

会議内での発言は必ずマイクを使用し、質疑、答弁の際は簡潔かつ明瞭をお願いいたします。

携帯電話をお持ちの方は電源をお切りいただくか、マナーモードにご配慮いただきたいと思えます。

ただいまの出席委員は5名であります。

欠席委員はおりません。

定足数に達しておりますので、これより産業建設常任委員会を開会いたします。

職務のため、議会事務局職員が出席しております。

議長はきょう体調不良のため欠席でございます。

これより議事に入ります。

本委員会の会議事件は別紙、会議次第のとおりであります。

初めに、産業建設常任委員会調査事項、下水道整備についてを議題といたします。

先日の視察研修は行方市ですけれども、大変お疲れさまでございました。

昨年の富岡市、太田市に引き続き、行方市の取り組みについてお話を伺ってまいりました。

本日は前回の視察の内容について振り返り、意見交換をしてまいります。

その後、現在の調査事項について調査の結果を集約したいと思います。

それではまず、行方市の視察の感想や、那珂市で生かしたい事例、課題などについて、ご意見をいただきたいと思います。

メンバーも少ないので、お1人ずつご意見等々述べていただけますでしょうか。

花島委員 3つの市ですか、視察して感じたのは、やっぱり合併浄化槽をちゃんと位置づけてしっかりやっていくのがいいかなと。

どれだけ精緻な検討をしているかは別として、広域下水道を単純に広めるというのは効率が悪いというのは、どこも共通かなと思います。

ただ、実際に進めるときに、例えば富岡市と太田市の場合でえらく違うんですね。それはやっぱり市の行政側の意気込みというか、位置づけが違っているように感じました。

できるだけ多くの市民に快適な生活、快適な環境で、下水道環境、そういうものを与えていきたいというふうに考えると、合併浄化槽を広げて、それで広域下水道計画はやっぱりかなり見直したほうがいいと私は思っています。

一方で、企業会計の導入という話がありますが、それはそれとして、収支勘定をちゃんと目に見える形にするのが大切ですがけれども、そういうことにとらわれず、トータルにどういうものが行政効率なり予算効率がいいとか、いかに円滑に管理できるかということを考えながら計画の見直しをしたらいいかなと思いますね。

ただ、なかなか難しいのは、じゃ、具体的にどの、広域下水道計画をどういうふうに変更するかとか、しないとか、そういう検討のプロセスですかね。それにはかなり手間もかかるし、あと、まだ那珂市においては合併浄化槽に対する理解が余らないと私は思っています。

だから、その辺の理解を広めながらしていかなきゃならないし、我々も理解していかなきゃいけないと思っています。

3つの市を見て思ったのは、どこもみんな高度処理をやっていますよね。

私も自分で合併浄化槽を持っていて思うのは、処理した結果の水がきれいだと、後がすごく楽なんですよ。側溝に流すにもためらわないだろうし、浸透処理をするにしても浸透部分とか蒸発散槽の部分が詰まる確率が非常に低いです。

だから、那珂市としても確かにコストアップにはなるんですけれども、市としてやるなら高度処理を推進していったらいいと思っています。

あとは、それを入れるのにどういう形でやるかということで、那珂市では市町村設置型というのはやっていないわけですがけれども、それも検討していくべきかなと思います。

特にもともと広域下水道計画が用意されている場所、この地域は将来入りますよと言っている場所に、じゃ、それはやめにします、合併浄化槽でやってくださいという話にした場合、何か市民の抵抗感というんですかね、あるかなと思うんですよね。

それを市町村設置型にすれば、設置場所とかは必要ですから、何の負担もないというわけじゃないんですけれども、個人個人で見ると負担は少ない、抵抗は少ないと思います。

ただし、それをやるとやはり市の事務処理とかなんかが結構ふえるので、それも覚悟で進めるということかなと私は思っています。

あとは、その区域外の合併浄化槽をどうするかというのでは、できれば富岡市みたいに全域に広げるといことも考えてはいいかなと思っています。

以上です。

遠藤委員　じゃ、行方市だけじゃなくて、今までのも含めてでいいですね。

そうですね、いろいろとケースバイケース、各市の思う事情があるのかなと思って見てはきました。

特にこの間の行方市に関しては、3町合併ということで、それぞれ旧町の設置の状況が全然また違うということもありまして、それなりの合併後の市の苦慮されているところも見てきたなという感じでございますね。

それで、市設置型ということでもございましたけれども、これもほかのところもそうでしたが、やはりそれに賛同していただいてやっていただくというふうな部分に関しては、結構理解が進まない場合もあるということもあるので、そこは一つ課題かなと、共通の課題かなというふうに思っ見てはきました。

ただ、やはりこれもずっと長年の課題ではありますけれども、やっぱり公共下水道が早く来るのが一番望ましい。望ましいんですが、やはりそれを待っているだけでもなかなか進まないというのが現状だということ言えば、見てきた市町村設置型という新しいタイプの方法も、これは大いに具体的に考えていいのではないかなと、そういう時期なのかなという感じはいたします。

ただ、やっぱり設置型もいろんな課題がありますから、基本的には市が全部やってくれるわけですが、また市の所有物、市の財産が民家の地下に埋まっているということを含めて、そういう所有権の問題や、いろんな理解がどこまで進むかというようなところがあると思いますから、いろんな課題はあると思います。

しかし、今何もしないでいるよりはということで、那珂市に合ったやり方で、こういう設置型というのはどういうふうに進導できるのかなというのは検討し始まっていいのではないかと、そういうふうな感じはいたしました。

ただ、いずれにしても上位計画の県との整合性、そこらも諮っていただいて、なるべく少しでも多くの方が納得いくような形で進めていただきたいなというふうに思います。

那珂市の場合は下水道のアンケートでも、やっぱり時間かかってでも公共下水を待ちたいというものも結構根強くあるというところではありましたから、そう簡単に、強引に市町村設置型ということではなくて、進めるには丁寧な議論を積み重ねてやっていく必要があるかなというふうに思いました。

以上です。

福田委員 視察先、3カ所視察をして、やはりどこの市も水洗化、あるいは排水の課題というのが非常に大変だなというのが1点。

それから、それにはやっぱり地域性、いわゆる何といいますか、地形によって、やはり格差がある。

特に、私はこの前の行方市ですか、あそこを視察して、合併前のいわゆる地域の格差というのが非常に大きく感じさせられました。特に人口密度の低い地域ですか、そういうところのトイレ、あるいは生活排水、これは非常に目についた点がありました。

本市の場合、やはり同じようなことが言えるかと思うんですが、合併浄化槽、あるいは公共下水道、菅谷地区が非常にもう進んでいる。そして農村部、いわゆる人口密度の低い地域が全く整備されていない。なおかつ、排水が全くできない状況の地域があるというように、欠くことのできない地域、こういうことをしっかり本市でも考えていく必要があるだろうと思います。

特に問題なのは排水処理が困難な地域の対策、対応ですか。こういうことを本市はどういうふうに今後していくのかということが大きな、私は課題だろうと、こういうふうに非常に強く感じたわけでございます。

以上です。

副委員長 確かに、今回3カ所見させていただいて思うのは、先ほどから各委員の方が言われているように、地域の格差というのはかなりあるのかなという、やっぱりその参考になるところと、またちょっと那珂市にはどうなのかなという部分のところとか、そういったのを見てきた上で見ると、確かに今福田委員も言っておりましたけれども、菅谷地域なんかはほとんどもう公共下水道が入っていて、そんなに問題ありませんけれども、あと、花島委員も言われているように額田地域とか、あと戸多地域とか、そういった地域によってかなりおけているところもあるのかなというのを考えると、やっぱり那珂市も新たな意味で、今後の課題としてのその排水処理もそうですけれども合併浄化槽、地域によっては入っていたほうがいいのかというふうには思います。

ただ、できればアンケートにもありましたけれども、本当にこう、さっき遠藤委員も言っていましたけれども、時間がかかってもやっぱり公共下水道にしてほしいという市民の根強い思いというのはすごくあるのかなという。

だから、その辺も理解をさせていただくというのは本当に大変だなと思っております。

ただ、その地域に合った部分を、今後公共下水道が30年とか40年かかるのであれば、そ

の方法を新たな意味で開発することがやっぱり大事なのかなと思っております。

以上です。

委員長 はい、ありがとうございます。

皆さんも意見、出尽くした感じはしますけれども、3地区見まして、やっぱり地域間の、地域のそれぞれ特性に合った排水処理の仕方をしているなということで感じました。

特に排水先がないということで言いますと、行方市なんかは例えば霞ヶ浦沿岸地域は水位が高くて、お話ではもう各個人のお宅に任せているというような状況ですけれども、その解決策を今模索中ということですね。

本市に置きかえても、例えば中台地区もそうですし、道路の側溝排水もままならない、自宅の敷地も狭いというところについては、公共下水道で進めるのがいいのか、もしくはもっと違った方法を調査研究して進めたほうがいいのかということ、やっぱりこの地域の特性にきちんと合わせた排水処理の方式を選定して、そこをそれで進めていくというやり方がいいのかなというふうに思いました。

特にそういう意味では、市町村型の合併浄化槽方式というのは非常に短期間で、経済的にも安くできるという、メンテナンス性もいいということが挙げられますけれども、那珂市には合っているのかなということが言えると思います。

もう一つは、大きな問題が、先般の、公共下水道を含めた排水処理未整備の地区の4,700世帯を超えるアンケートの結果で言うと、やはり公共下水道を待ったほうがいいよねという方も数多くいるし、合併浄化槽が入っているところは今のままだもいいという人も多くいらっしゃるし。

それで、早くしてほしいという方も、これまたたくさんいるということで、そこは丁寧に、やっぱり下水道審議会が今後、来月ですかね、答申を出しますけれども、それに基づいて、住民の方のアンケート、状況をきちんと説明をしていく。

現状はこうなっています、今後はこうしたいというのを丁寧に、何回も住民の方に説明をして、住民の皆さん方の意見を本当のところはどうしたいという話をまとめて推進をしていくのがいいのかなというふうに思います。

やっぱり今すぐにでも欲しいという方というのも、これは現実でたくさんいるわけですね。

そのところを、その短期間でというところを、どうスピードアップしているかというのはやっぱり大きな課題ではないかなというふうに思います。

感想については以上です。

ということで、いろいろ意見が出されましたので、1回、暫時休憩をいたします。

休憩（午前10時17分）

再開（午前10時18分）

委員長 再開いたします。

では、今各委員の方からご意見いただきいたんですけれども、これまでの調査を総括して、現在的那珂市の下水道事業の課題及び課題解決のためにどのようなことが必要かということにつきまして、再度皆さん方のご意見をちょうだいしたいと思います。

先ほど意見、感想の中にも入ってございましたけれども、改めてまた。

花島委員 先ほど言い忘れたんですが、やはり大事なことは、計画の変更というのは、皆さんの、市民の理解を得ることもすごく大事なんですけれども、その場合にはその説明をする人がよくわかっていないとだめなんですよね。

正直言って、前にも言いましたが、前にやった下水道課のアンケートは、つくった方が本当のところをよくわかっていないんじゃないかと思うような質問内容なんです。

だから、下水道課にちょっと研究してもらって、合併浄化槽にしる公共下水道にしる、それぞれのメリット、デメリットとか、合併浄化槽だったらどういうものを入れたらどういうふうになるとか、そういうことをよく研究してもらって当たってもらわなきゃならない。

それで、私たちも市民に説明に行きますけれども、やはり最終的に計画を具体化するのは下水道課なり市執行部なので、そこをしっかりとってもらわないと。ただ私たちが形だけこの部分を合併浄化槽にみたいに言うだけではうまくいかない可能性もあると思います。

それから、排水の問題というのはやっぱり大事な問題なので、できれば雨水排水も含めて一緒に改善する方法を、排水処理の、下水というか、生活排水の処理とリンクしてやったらいいと思いますが、それは望ましいことだけでも、必ずしもかえって無理に一緒にすると難しいこともあるので、その辺は執行部によく考えながらやってもらうということも一緒に提案したらいいかと思います。

遠藤委員 あと、人口減少社会にこれからなっていくわけですよ。

そういった意味では、公共下水道、当然敷設すれば、敷設するに当たっても当然莫大な予算がかかりますけれども、当然設置すれば老朽化していくと。

これをまた公共施設の財産をいかにメンテナンスするか、こういう課題が、やっぱり長期的に見るとあるわけですし、それが果たしてこれから人口が減っていく、当然少子化対策等々を含めて頑張っていくわけではありまじょうが、この流れというのはなかなか難しい部分があって、今後の人口減少社会に対応していく公共排水事業という意味では、今のニーズはアンケートでは早くほしいというのはかなりあるかもしれませんが、今後を考えると何が何でも公共下水道が本当にいいのかという、右肩上がりの経済の社会できた考えとはちょっと違うような転換点も必要なのかなという感じはするんですよ。

そういった意味では、市町村設置型、やっぱり浄化槽という部分はまた別の考え方ではありますから、そういったところでひとつ皆さんにいかにこの理解をしていただくかというのは丁寧に説明をしながら、ただそのかなり、ほかの既にやっている、設置されていた市町村の事例でいうと、問題点として、市町村設置型を実施しても、その切りかえは個人

の意思に左右されるというところがかかなりあるということなので、ここが実際にどうかかと。

非常に、実際に市の方向として進めても、市民の意識と乖離してしまっはなかなか難しいし、ここをいかに理解していただくかという、花島委員のあれではないですが、執行部の説明、努力というのがやっぱり求められるのかなというふうに感じてはおりますが、ちょっと一つ転換点なのかなと。

これ、人口減少社会ということを考えて、いろいろと見直しをされる時期かもしれないなということをお話しておきたいなと思います。

福田委員 本市において、公共下水道、それから農業集落、こういうふうに分かれておりますけれども、何というんですかね、今後のいわゆる本市の対応策というのが、現状ではまだ見えてきていない。

農集の場合にはほぼ終了したんだろうと思います。ただ、公共下水道、これがまだまだ未確定の部分が非常に多い。

しかも、いつになるかわからないという不透明さ、こういうことが、いわゆる人口減少とか、今度区域指定、こういうこともやりましたけれども、なかなかそれに対応できる、そういう何といいますか、市町村型の合併浄化槽をさらに進めていくのか、あるいは公共下水道でいくのか、こういうことが非常に見えてこない。そういうことをしっかり方向を定めていただきたいなと。

特に、何といいますか、人口密度の低い地域。これに対してのこの対応策ということが今求められているんじゃないかな。

それには地形的なこの排水、こういうこともあるかとは思いますが、各課と連携をとりながら、特に那珂市の場合にはこの下水の処理問題、これは大きな課題だろうと思います。

ですから、再度申し上げますが、やはり担当部署の方向整理をしっかりといただいて、我々市民に示していただきたい。こういうふうに思います。

副委員長 すみません、大体もう皆さんが思っていることがほとんど出ております。

確かに本当に今後、公共下水道が明確化されてないという部分であれば、那珂市としてどういうふうにしていかなくちやいけないのかと考えると、その住民の思っているものもあると思うんですけれども、やっぱりしっかり市としてどういう方向性で持っていくのか、また今下水道審議会とかされていますけれども、その下水道審議会でもどういう方向性を持っているのかというのを具体的に決めていただいたほうがいいのかなというふうには思っております。

そういったところで、やっぱり今後5年、10年、20年とかになりますけれども、いつまでしっかりとできるのかというのを、今後決めていただきたいとも思います。

以上です。

委員長 はい、わかりました。

皆さんから出ましたけれども、私も現状の公共下水道、農業集落排水、あとは合併処理と3つのタイプがありますけれども、それぞれ現状は投資額がいくらで具体的にはこういうふうになっていますよということですね。

使用料、そのほか、今後経営していくについての問題点等々も含めて、まずは市民の皆さんに現状こうなっているという部分ですね。

それから、今後については各委員の方から出ましたように、やはりまだこの先どうなるという整備計画が不透明なので、これをどういうふうにしたいというのを、やはり下水道課のほうから示してもらいたいということですね。

それについてはアンケートがありますし、アンケート結果を十分説明会を開いて説明をしていただくということですね。

じゃ、次に市町村型の合併浄化槽方式というのものも、我々もちょっとこれも検討して、新しい手法として取り入れてはどうかという提案を、今回はしてみたいなというふうには思っております。

ということで、新しい手法についても、じゃ、合併処理浄化槽の特徴はこうで、具体的にはこういう使用料で、こういうふうになりますよという話も、やっぱり詳しく説明をしていただくというのは必要になるかと思えます。

それで、あわせて市町村型でいいますと、管理は市町村、市のほうでやるということになりますので、その辺の対応の問題、それから今後50年先を見越して、100年先を見越してどうなるという部分も、ある程度勘案して将来像を示していただけたらなというふうに思っています。

あとは排水先の問題が一番大きなことになっていますので、これも早急に調査研究をしていただいて、例えば公共下水型でも人口密集地区は、特に中台地区なんかはそうですので、後台もそうです。

これももうちょっと工夫すれば何とかなるのかなという気もしないでもないのですが、ぜひそういうのも調査を要望したいというふうに思います。

あと、30年たっても現在整備されていない地域が4,700世帯強ありますので、将来計画を、やっぱり示すということが非常に重要なことになるので、これもぜひやっていただきたいなというふうに思います。

以上です。

それでは、いただいたご意見もとに調査のまとめをしたいと思っておりますので、暫時休憩いたします。

再開を、15分ほど休みますので、45分といたします。

休憩（午前10時31分）

再開（午前10時44分）



委員長 それでは再開いたします。

それでは、集約した内容を木野副委員長のほうから発表願います。

副委員長 それでは、まとめた内容を発表させていただきます。

まず、那珂市の下水道事業においてなんですけれども、これは下水道整備がかなり遅れている。

それで、その整備の先行きもかなり不透明であるということがあります。

また、地域によってもその地域格差というのがありますので、その辺も、今後一つの、やっぱり課題として考えております。

また、排水先が十分に確保されていないため、地域によってはかなりいろんな問題が出てきております。

また、アンケートを下水道課のほうで取りましたけれども、そのアンケートから、いまだに公共下水道の整備を求めていただくという声はかなりありますし、また、その公共下水道に関してはスピード感を持ってやっていただきたいという意見もあります。

また、人口減少の状況からも見ますと、今後、やっぱり長期的な見通しも考えなくてはならないのかなというのが、那珂市としての一つの課題だと思っております。

このためどうするかということなんですけれども、早急に市としまして方向性をしっかりと明記していただいて、どうするかというのをはっきりと市民の方に説明していただきたいと思っております。

また、公共下水道だけではなくて、市町村設置型も一つの手法であるということもあるので、その辺も市のほうとしては検討していただきたいということでもあります。

また、地域の実態、住民の要望をしっかりと調査していただいて、理解を得ながら実態に合った方法をとるのも一つの、今後の方向性なのかなというふうには思います。

また、排水先確保のために、各課がしっかりと連携をとっていただきたいというのが、私たちこの委員会でも先ほど来からありましたけれども、この1つの課だけではなくて、市全体で各課が連携をとっていただいて、その辺を同じ意見を共有していただくというのも、やっぱり大事なのかなという、今まで那珂市って結構そういうところかなり多くて、ほかの部署では全然わからないとかという部分もありましたので、そういうことがないように、しっかりと市でまとめた意見を統一方向性として出していただきたいと思っております。

また、雨水排水も含めて、生活排水を何とかしてほしいというのが現状でありますので、そういうことは今後、この委員会としてもしっかりと上下水道部のほうに、下水道課のほうにも求められると思っております。

そういったところがまとめになります。

あとまた詳しいことに関してはまとめて、委員長、副委員長のほうで考えさせていただきますので、よろしく願いいたします。

以上です。

委員長 はい、ありがとうございました。

ただいまの内容を調査の総括といたしまして、調査を完了といたします。

これにご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ声あり)

委員長 なお、今後要望書をまとめて、副市長と、それから上下水道部長あてに、2月26日に提出をいたします。

ということで、ご異議なしと認めますので、これで当委員会調査事項「下水道事業について」は調査完了すべきものと決定いたしました。

本日の議題は全部終了いたしましたので、これで産業建設常任委員会を閉会といたします。

どうもお疲れさまでした。

閉会 (午前10時48分)

平成30年 3月 5日

那珂市議会 産業建設常任委員会委員長 寺門 厚